

富士河口湖町 教育センターだより

平成23年11月8日

No.9

10月27日から「読書週間」が始まりました。本屋さんや図書館をのぞくと、興味をひく特集が組まれています。これさえあれば元気が出る！本こそ、人生の友だちと密かに思っている人も少なくないと思います。



**疲れたり、寂しかったり、
心がくじけそうになったときでも、
本を読むことで別の世界にトリップしたり、
やる気が起きたり、新しい知識を吸収したり、
あるいは楽しい気持ちになったりできます。
あなたはどんな本に癒され、
元気をもらっているのでしょうか。**



各学校での読書への取り組みは、今年年間の重点項目の1つです。先生方のお勧め本の紹介や、読書列車や読書で地球一周……。図書委員会の寸劇や外部の人による読み聞かせ等、いろいろ工夫が伺えます。読書が思考や情緒に大きな功績を残していることは周知の事実です。幼い頃から読書に親しむことがよいと多くの学者も唱えています。

子どもを読書好きにする最大のポイントは、「お母さん、今仕事が一段落したから、本を読みたいの。静かにしてくれる？」そうして、本を読み出せば、子どももちよこんど近くに座って本を読み出すでしょう。途中から、読み聞かせもいいでしょう。「お母さんもこの本知っているよ。」とか、「どんなお話か教えて。」と読書後の会話も広がってきます。テレビを消して、静かに本を読む姿が子どもに刺激を与えます。

子どもとのふれあいの場はいたるところにあります。それに気付くかどうか、やってみるかどうかです。毎回、いろいろなふれあいを紹介しています。もし、心に触れたものがあったらやってみてください。自らの姿で伝えることや子どもの目線で寄り添うことが、ふれあいの一歩だと思えます。そして、かけがえのない時間です。

●今年も「川の学習」に行ってきました。

秋の深まる中、いくつかの小学校（5年生）の「川の学習」に、センター長が講師として参加しました。9月に大型の台風があったり、運動会や遠足等の大きな行事におわれ、川に行く時期が例年より遅くなってしまいました。また、時間が確保できず、やむを得ず実施出来ない学校もありました。太陽は出ていても、流れる川の水はとても冷たく、お楽しみの川遊びが思う存分出来なかったことが残念でした。教室でも十分学習はできます。しかし、実際に体験に勝るものはありません。今年から各学校対応となりましたが、これからも続いていくことを願っています。

